京都だより

Kyoto Dayori

January
2026
No.578
1

一般社団法人 京都府建築士会

●けんちくつれづれ草　第214回
京町家第2の滅失とまちづくり支援
●事業案内
地盤・基礎設計勉強会
歴史的建造物 デジタルマップ整備まち歩き〈左京区上高野地区〉
建築家セミナー2026
令和7年度 国内研修旅行 ～直島・香川アート巡り～
令和7年度 既存住宅状況調査技術者講習
令和7年度 監理技術者講習
●お知らせ
事務局移転のお知らせ
令和7年度 専攻建築士制度 登録申請の受付開始します
●新年挨拶　会長・京都府知事・京都市長・支部長・青年部長・女性部長
●特集
京都を彩る建物や庭園 第17回
調査のこだわり ～一人の修道士兼建築家を追って～
●支部だより　建築士会に入会しました
●本のストラクチュア 第15回
●表紙のことば『藤森神社八幡宮社』



けんちく つれづれ草

第二百十四回

高田　光雄

たかだ・みつお
1951年 京都市生まれ
京都大学大学院工学研究科修了
博士(工学)・一級建築士
京都美術工芸大学 副学長
京都大学 名誉教授
(一社)京都府建築士会 顧問

京町家第2の滅失とまちづくり支援

京都市、公益財団法人京都市景観・まちづくりセンター、立命館大学が共同実施した「令和6（2024）年度京町家状況調査」によると、様々な保全・継承策が講じられてきたにもかかわらず、京町家は、調査開始時から相変わらず毎年約1・7％づつ減り続けている。例えば、前回調査時である2016年度存在していた40、146軒の京町家は、今回34、580軒となっており、8年間で5、566軒の解体、滅失があったことになる。この状況は、生活文化を含めた京町家の現代的価値を評価し、その保全・継承を図ろうとする立場からは、既に限界的とも言える超深刻な状況であると言わねばならない。

さらに、同じ調査における京町家の用途を見ると、約1・1％が併用住宅、約59・1％が専用住宅、約9・5％が飲食店や宿泊施設などの非住宅、約20・7％が不明となっていた。用途については、前回調査とは調査方法が異なるために単純には比較できないが、前回調査では、住宅系83・5％、非住宅系8・3％、不明8・3％となっており、住宅系用途が減少し、非住宅系用途が増加していることは明らかである。生活文化を含めた京町家の保全・継承の視点から見ると、京町家の居住機能の喪失は極めて大きな損失である。また、非住宅用途の中で生活文化を含めた京町家の保全・継承に寄与するものが必ずしも多くはないことも自明である。こうした状況は、京町家の姿、形は残っても、その用途が変化する中で、生活文化を含めた京町家の価値が失われていることを示すものである。私は、こうした変化を京町家の「第2の解体」あるいは「第2の滅失」と呼んできたが、今回の調査では、図らずもその実態が露呈したように思われる。

私が会長を仰せつかっている京都市京町家保全・継承審議会においても、京都市都心部（職住共存地区）の委員からは、近年の状況として、京町家が減少していることが問題であるという段階は既に通り過ぎ、「まちが壊れていく」「コミュニティが壊れていく」ことが本当に深刻な問題となっており、そこには、京町家の用途、所有者、利用者の変化が大きく関わっているという発言が相次いで行われた。京町家の「第2の解体」あるいは「第2の滅失」の深刻な状況が具体的に指摘されたのである。

京町家条例に基づく京町家の解体抑制も重要ではあるが、こうした状況を食い止めるためには、それだけでは十分ではない。審議会では、第1に、「いえ」の視点として、個々の京町家の保全・継承に対する経済的支援や税減免、流通や社会的保有等の促進と、用途変更や改修を含めた建築指導上の取り組みの一層の強化、第2に、「まち」の視点として、強力な都市計画的手法等による京町家の保全・継承、地域住民ニーズを反映した街並み景観づくりの促進、第3に、「くらし」の視点として、京町家居住の促進や、いえレベル、まちレベルにわたる生活文化継承に関わる教育を含めた活動の促進などが求められた。

こうした内容を取りまとめ、2025年10月8日、京都市京町家保全・継承審議会答申として松井孝治市長に提出した。これを受けて、京都市当局には、的確な対応を速やかに実施することを強く求めたい。ただし、実は、この流れの中で、建築士や建築士会の役割が一層重要となっていくことを、われわれは自覚しなければならない。すなわち、いえレベル、まちレベルにわたる生活文化を含めた京町家の保全・継承の促進のために、従来の建築士や建築士会の活動は、さらに拡大、強化していくことが求められているのである。とりわけ、「異なる価値観の共存」を本質とする京都の生活文化の継承・発展に向けての地域まちづくり活動の支援、幅広い学校教育や社会教育の支援には、建築の伝統構法や建築基準法適用除外などの技術的、制度的知識に加えて、社会的、文化的教養と高いコミュニケーション能力が必要とされる。ここでは、京都の建築士や京都府建築士会に求められるこうした新たな役割について、「建築士法」の原点に立ち返り、しっかりと応答できる建築士や建築士会を目指すことを改めて提起しておきたい。



五条坂なかにわ路地
（東山区、公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
2019年度京町家まちづくりファンド
改修助成事業）

地盤・基礎設計勉強会

法制委員会

●ＣＰＤ　2単位
●日　時　2026年1月26日（月）
　　午後7時～午後9時
●会場・集合場所
　　京都建設会館別館4階会議室
　　及びオンライン（ZOOM）
●講　師　法制委員会委員
●参加費　会員（会場・WEB）2,000円
　　一般（会場・WEB）3,000円
●定　員　20名（会場参加）＋
　　オンライン参加
●申込締切　2026年1月20日（火）
●内　容
4号縮小にともなう、地盤・基礎についての基本的設計判断が問われる状況の中で今更聞けないテーマであらためて勉強会を致します。
保険・保障について、地盤調査報告書の読取りについて、基礎設計（基礎断面・配筋計画・アンカーボルト・その他）、確認検査機関からの注意点等について解説をした後、質疑の時間も取っていますので多くの方にご参加いただきたいです。

歴史的建造物
デジタルマップ整備まち歩き
〈左京区上高野地区〉

ヘリテージマネージャー委員会

●ＣＰＤ　無し
●日　時　2026年3月8日（日）
　　午後1時～午後4時30分
●集合場所・時間
　　叡山電鉄 三宅八幡駅
　　集合時間／午後0時50分
●会　場　京都市左京区上高野川原町ほか
●見学先　対象地区内の農家住宅
●参加費　無料
●定　員　15名
●申込締切　2026年2月24日（火）
●内　容
当委員会では、歴史的な建物の維持保存と被災時の復旧支援に役立てることを目的に、まち歩きを通して地区の歴史を学びながら、未指定の建物を登録したデジタルマップを整備しています。また、それら建物の中から“京都を彩る建物や庭園”制度※による「選定」に相当する建物を京都市に推薦しています。
左京区上高野地区は、かつての鯖街道の分岐点であり、先進的な灌漑施設を擁する田園地帯でした。集落の中には今も多くの歴史的な建物をみることができます。当日は、まち歩きと併せ、登録有形文化財建造物の内覧を予定しています。
士会会員の方であれば、どなたでもご参加頂けます。是非ご参加ください。
（申込注意事項の欄もご参照ください。）
※HP（京都市文化市民局）
https://kyoto-irodoru.city.kyoto.lg.jp/

建築家セミナー2026

青年部会 研修・セミナー担当会

●ＣＰＤ　2単位
●日　時　2026年3月22日（日）
　　午後2時～午後4時
●会　場　ウィングス京都
●講　師　FUJIWALABO 藤原徹平 氏
●参加費　無料
●定　員　200名（要事前申込／先着順）
●申込締切　2026年3月15日（日）
●内　容
日本建築界の第一線でご活躍され、第13回京都建築賞最優秀賞を受賞されました藤原徹平氏にご講演頂きます。
ミニマルなデザインでありながら、都市空間や自然の中に存在する「境界」や「関係性」を問い直すような建築作品の紹介を通して藤原徹平氏の建築の考え方を学び、参加者の建築活動等の発展に寄与することを目的とします。

令和7年度
国内研修旅行
～直島・香川アート巡り～

青年部会 研修・セミナー担当会

●ＣＰＤ　10単位（予定）
●日　時　2026年4月18日（土）～19日（日）
●集合場所　京都駅 アバンティ前
●会　場　香川県内 高松市近郊及び直島
●参加費　会員：38,000円
　　一般：43,000円
●定　員　35名
●申込締切　2026年3月31日（火）
●内　容
研修旅行では、直島をはじめとする瀬戸内地域の建築・美術文化を実地で学ぶことを目的とします。特に谷口吉生、安藤忠雄といった著名建築家の設計による美術館建築を現地で体感することにより、建築設計における空間構成・意匠・ディテールの実践的理解を深めることを目的としています。また、会員同士の交流を通じて、建築士としての見識とネットワークの拡充を図ります。是非ご参加ください。

見学先予定
1日目:
本福寺 水御堂、瀬戸内海歴史民俗資料館、丸亀市猪熊弦一郎現代美術館、香川県立東山魁夷せとうち美術館
（高松市内に宿泊）
2日目:
ANDO MUSEUM、南寺、直島新美術館、地中美術館
※行先は予定です。

お知らせ

「京都だより」特集まとめ

（一社）京都府建築士会のホームページで、「京都だより」の特集をまとめたPDFをご覧いただけます。

Event Calendar 2026

2 ← 1

Exhibition
Seminar
Symposium
Event

1 January

Sun 4　事務局年末年始休業（1/4まで）
Mon 5　事務局仕事始め
Wed 7　新年交礼会
Tue 13　常任理事会
Mon 19　支部長会議／理事会
Mon 26　地盤・基礎設計勉強会

2 February

Mon 2　常任理事会
Mon 9　代議員選挙投票期限
Sat 14　宮大工の技を学ぶ（奥谷組展示資料館）特別見学会
Tue 17　既存住宅状況調査技術者講習（更新）
Fri 20　臨時理事会
Sat 21　「京都花街の都市史・建築史」第5回：座学
※第5回の日程が変更になりました。
【変更前】2026年2月22日（日）→
【変更後】2026年2月21日（土）

※注意：京都建設会館の駐車場は利用できません

参加申込

電話・FAX、またはホームページからお申し込みください。事業内容の詳細は、ホームページをご確認ください。

（一社）京都府建築士会事務局
TEL075-211-2857　FAX075-255-6077
https://www.kyotofu-kenchikushikai.jp
E-mail:contact@kyoto-kenchikushikai.jp

2026年 新年のご挨拶

一般社団法人 京都府建築士会 会長
山領 正



新年あけましておめでとうございます。

会員の皆様におかれましては、健やかに新春を迎えられたことと心よりお慶び申し上げます。平素より京都府建築士会の活動に深いご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

今年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。「丙」は火の性質を持ち、陽のエネルギーを象徴して燃え盛る炎のように、明るく、力強く、この年は、「情熱」「エネルギー」「行動力」「改革」がキーワードで新しいことを始めるには最適の年とされます。

昨年は、我が国にとって政治・経済の大きな転換点となった一年でありました。新たな政権の発足により、地方分権や地域活性化、脱炭素社会の推進といった政策が再び注目を集め、私たち建築士にとっても社会的な役割の再定義が求められる時代となっています。国や自治体の政策が変化する中で、建築の現場にも規制緩和や技術支援の新しい制度が導入されつつあり、まさに「変化への適応力」が問われる一年の始まりです。

建築デザインや技術の分野では、生成ＡＩ、ＢＩＭ（ビルディング・インフォメーション・モデリング）、環境シミュレーションなどのデジタル技術が急速に進展しています。これまで図面と模型でしか表現できなかった空間が、リアルタイムで共有・検証できるようになり、ＡＩによるデザイン提案や、施工現場ではロボティクスを活用した施工技術、再生可能エネルギーを統合した建築システムなど、持続可能な社会に向けた革新が次々と現実のものとなり、建築確認申請のデジタル化も含め設計業務のプロセスそのものが大きく変わりつつあります。

こうした技術革新は単なる効率化にとどまらず、建築士の創造性を拡張し新たな文化的価値を創出する可能性を秘めています。京都という千年の都においては、伝統的な木造建築技術と先端技術の融合が世界的にも注目を集めています。たとえば、伝統工法のデジタルアーカイブ化や、古民家再生における構造解析技術の応用など、過去と未来をつなぐ実践が進んでいます。私たちが守り、育ててきた「京都の建築文化」を、次の世代にどのようなかたちで継承するか、それが今年の大きな課題と思います。

気候変動や災害リスクへの対応も喫緊の課題です。近年の豪雨災害や地震によって、地域の防災力を高める建築のあり方が問われており、災害復旧に関して応急危険度判定後の建物調査も含め、京都府建築士会では行政や他団体、大学、産業界との連携を深め、技術講習会やセミナーなどを通じて、建築士が果たすべき社会的責任を担う次代を育ててまいります。

また、伝統技術や新しい技術を学びながらも、「人がつくり、人が住まう建築」の本質を見失うことのないよう、倫理と感性を兼ね備えた建築士像を確立していきたいと考えており、２０２６年のキーワード「エネルギー」「行動力」「改革」で変化を恐れず、伝統と革新を**つなぐ年**と位置づけ、会員の皆様のご健勝とご発展を心より祈念申し上げますとともに、京都府建築士会としてさらなる飛躍の一年となるよう、共に歩んでまいります。

最後になりましたが、京都府建築士会を会長方針の

「つなぐ・その先は∞（無限）」

～会員⇕情報⇕地域

⇕士会⇕次世代と～

の取り組みを、精一杯して参りますので、今年も引き続きご支援ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

２０２６年　元旦

未来に向けて輝き続ける京都づくりに挑戦

京都府知事　西脇隆俊

あけましておめでとうございます。府民の皆さまにおかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶（よろこ）び申し上げます。

昨年は、「大阪・関西万博」の開催を通じて、多くの方に京都の伝統から革新までさまざまな魅力に触れていただきました。また同時に、文化庁の京都移転から3年目を迎え、国と協力して新しい文化政策を京都から創り上げ、世界に向けて発信できたことにより、改めて、京都の文化力の奥深さを再認識する機会ともなりました。

「美しい花を咲かせ続けるには、停滞することなく、変化し続けなければならない」。これは、室町時代に能を大成した世阿弥（ぜあみ）が「風姿花伝（ふうしかでん）」に残した後人への心得です。当時の大衆芸能であった猿楽（さるがく）を磨き上げ、日本が世界に誇れる芸術である能へと昇華させていった世阿弥は、常に変化を恐れず進化していく努力の大切さを花に例えて説きました。千年の京都の歴史と文化も、そのときどきの先人たちが絶え間なく変化を繰り返して育てあげてきた、かけがえのない財産であり、国内外から多くの方が訪れる京都の魅力の源泉です。そして、時代の変化を柔軟に受け容（い）れ、常に技術の進歩を人々の幸せにしなやかに結び付ける文化と心根が、今も昔も京都でイノベーションを生み出し続ける原動力となっています。

本年は、こうした先人たちからの「贈りもの」を活かして、人と人との絆や京都府と府民の皆さまとの信頼関係を大切にしながら取り組んできた、京都府総合計画の最終年度を迎えます。全ての営みの土台となる安心を確かなものとし、府民の皆さまが、未来を担う子どもたちをあたたかく育みながら、将来に向かって夢を抱いていける、「あたたかい京都づくり」を実感いただけるよう、取り組んでまいります。

私たちが生きる現代は、人口減少・少子高齢化に加え、気候変動やＡＩによる技術革新など、大きな変革期にあります。先行きを見通せない今こそ、京都の魅力を支える府民の皆さまや京都を訪れる多彩な人材と共に、先人から引き継いだ京都の魅力の源泉を磨き上げてまいります。そして、今年の干支（えと）「午（うま）」が象徴する、飛躍し、力強く前進する馬の如く、直面する課題を一つずつ乗り越えながら、前へ前へと絶えず成長を続ける、輝き続ける京都を実現してまいりたいと考えております。

今年一年の皆さまのご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつといたします。



～京都の理想の実現に向けて歩み出す一年に～

京都市長　松井孝治

あけまして、おめでとうございます。皆様にとって素晴らしい一年となりますことを、心からお祈りいたします。

さて、昨年末に、京都が千年以上にわたり継承してきた自然、歴史、文化などの「まち柄」を確認し、世界と日本、そして京都の現状を踏まえ、２０５０年を展望した京都のまちの羅針盤となる「京都基本構想」を策定しました。この構想は、京都の各分野を代表する方々、高校生や大学生をはじめ、25年後の京都でオピニオンリーダーになるような若い方々など多くの市民の皆様と、京都のまちが未来に向けて何を大切にすべきかについて意見を出し合い、議論を重ねた結晶です。

今後はこの構想の理念や価値観を拠り所に、「新京都戦略」を改定するなど、具体的な政策を展開していかなければなりません。

京都では長い都市の歴史の中で、祇園祭をはじめとする年中行事や、人間の極致を体現する伝統産業や芸能、そして自然と共生する暮らしの文化が育まれてきました。これらを支えてきたのが、文化芸術、学問、産業、歴史、スポーツ、地域活動など、京都のあらゆる分野で技藝や技能を有し、人を惹きつける磁力を持つ方々、いわば「京都学藝衆」です。これらの方々の技や経験、想いを次の世代へと大切に伝えていくことが地域や国内外の人々から愛される唯一無二の価値を持つ京都の未来につながります。

京都市といたしましても、公園や図書館といった公共空間をもっと市民の皆様に開き、未来を担う子どもたちや若者が、市井に息づく豊かな知恵や学藝に触れる機会を創出し、「夢中」と「感動」が溢れるまちを実現してまいります。

そして、文化芸術、ものづくり、自治の伝統など京都の強みを生かし、若者の起業支援や新産業の創出、企業誘致などの取組を推進し、多彩な人々が交ざり合い、新たな価値を創造し、日本中、世界中の人々から、住みたい、働きたい、活躍したいと思われ、選ばれるまちを目指して様々なチャレンジを重ねてまいります。

新たな四半世紀に向けたスタートとなる今年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。物事を力強く前進する意味が込められています。様々な課題を乗り越え、今日の京都の発展を築いてこられた先人の心意気を大切に、誰もが幸せを感じ、互いにつながり、支え合い、生きがいを持って活躍できる。そのような京都の理想の実現に向け、力強い一歩を踏み出してまいります。



新年あけましておめでとうございます

丹後支部 支部長 久保 祐一



新春の候、皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。
旧年中はひとかたならぬお力添えを賜り、心より御礼申し上げます。
２０２５年は、大阪・関西万博が開催され、建築と地域の未来を考える大きな転機となりました。私自身、家族四人で会場を訪れ、世界の建築技術や環境への取り組みに触れ、建築の可能性を改めて実感いたしました。現在建築を学んでいる、娘と息子にとっても、生きた学びとなる刺激的な経験となりました。
一方で、私たちの地元・京丹後市丹後町間人でも、移住やインバウンドの増加により、空き家再生の相談や宿泊施設への改修など、新たな建築需要が確実に広がっております。豊かな海と山に囲まれた間人の魅力は、国内外から注目されつつあり、地域に根ざした建築士として、その価値を未来へ丁寧につないでいく責任を感じております。万博の示す「未来社会」の理念を糧にしながら、丹後の自然・文化・暮らしに寄り添った建築のあり方を模索し、地域の魅力をさらに引き出す家づくり・空き家活用に努めてまいります。
本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

宮津支部 支部長 和田 直之



会員の皆様におかれましては、健やかに新年をお迎えになられましたこと、心よりお慶び申し上げます。
平素は支部活動ならびに本部運営に格別のご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。
昨年を振り返りますと、7月11月に宮津市建築住宅係との共催により、建築相談会を計画・実施いたしました。耐震性に不安を抱える住宅が依然として多く存在する地域の現状を踏まえ、継続的な取り組みとして宮津市と協力を進めております。本年は、与謝野町や伊根町との連携も視野に入れ、より広域で暮らしの安全を支える活動へと発展させていきたいと考えております。
また、毎年支部として参加しております全国大会は、昨年は大阪で開催され、多様な分野で活躍される建築士の方々と交流を深め、学びを得る貴重な機会となりました。得られた知見を支部活動の一層の活性化へとつなげていきたいと思います。
さて、社会全体ではＡＩ技術の急速な普及が進み、建築分野においても設計支援、業務効率化、シミュレーション技術の高度化など、大きな変革が生じております。こうした時代の変化は、私たち建築士の専門性が問われると同時に、新たな価値を創造する好機でもあります。ＡＩが担う部分と、人が担うべき判断・倫理・地域へのまなざしを明確にし、より安全で、より豊かな暮らしと景観を未来へ引き継ぐための役割が、今こそ求められていると感じております。
技術を恐れるのではなく、的確に理解し活用しながら、地域に根ざした建築士としての使命を果たしていく一年にしたいと存じます。
２０２６年は午年であり、「飛躍」「発展」を象徴すると言われます。支部役員一同、会員の皆様とともに、地域にしっかりと根を張りつつ、大きく前へ進む一年とすべく努めてまいりますので、何卒ご協力のほどお願い申し上げます。
末筆ながら、本年が皆様にとりまして実り多き一年となりますよう、そしてご健勝とご多幸を心より祈念し、年頭のご挨拶とさせていただきます。

舞鶴支部 支部長 坂根 功一



会員の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。平素は舞鶴支部の活動にご支援・ご協力をいただき誠に有難うございます。
振り返りますと、昨年関西は万博で盛り上がりました。私も何回か行きましたが、大屋根リングを始め『建築』を見るだけでも楽しく勉強になりました。ＣＬＴなど木材を活用したサスティナブルな考えが大切なことを実感いたしました。
また6月に史上最速で梅雨が明けたかと思えば、連日の猛暑で近隣でも41度を超える気温を観測しましたが、間違いなく地球温暖化の影響であると思われます。徒然草の五十五段に『家の作りやうは夏をむねとすべし』と書かれていますが、今後のキーワードになるのではないでしょうか。ただし機械空調に頼り過ぎないように日本建築の良さを見直してみたいと思います。
本年は午年です。馬は生活の要であり、健康や豊作、発展の象徴でもありました。また戦国時代にも武将にとって無くてはならない存在でした。政権も変りましたし、駿馬のごとく力強く前進する年になりますことと、会員の皆様方のご発展とご健勝を祈念いたしまして年頭の挨拶とさせていただきます。

福知山支部 支部長 立石 一之



新年あけましておめでとうございます。
旧年中は皆さまの多大なるご支援・ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。
さて、２０２６年の住宅建築業界を展望いたしますと、依然として人手不足や資材価格の高止まりが続く一方で、既存住宅の活用や省エネ・省CO_2住宅へのニーズが一層高まると見込まれます。特に、長期優良住宅やZEH関連の補助制度の拡充が期待され、リフォーム・リノベーション市場の活性化が進む一年となりそうです。また、デジタル技術の導入による設計・施工プロセスの効率化も、地域工務店や設計事務所にとって重要なテーマになると思われます。
日本全体の経済状況については、緩やかな物価上昇と賃上げの定着を背景に、内需が底堅く推移する一方、円安や国際情勢による不確実性は引き続き注視が必要だと思われます。
住宅ローン金利は大幅な上昇は避けられるとの見方が多く、消費者の購買意欲を大きく損なう環境にはならないと予想されています。
本年が、皆さまにとって健やかで実り多い一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。
そして、建築士として地域社会に貢献し、より良い住環境づくりに取り組む一年とすべく、共に歩んでまいりたいと思います。
本年もどうぞよろしくお願いいたします。

綾部支部 支部長 村上 正一



新年あけましておめでとうございます。
平素より京都府建築士会綾部支部の活動に温かいご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。
昨年は、一昨年に引き続き建築士の日事業として「耐震診断・耐震改修」を学ぶ講演会を開催し、多くの皆様と学びを共有することができました。また、本年は新入会員が1名加わり、支部に新しい視点と活気が加わることを大いに楽しみにしております。
本年の干支は「丙午（ひのえうま）」です。力強く駆ける馬の姿は前進と躍進の象徴であり、私たち綾部支部もその勢いを受け、地域の建築文化の向上や、安心・安全なまちづくりに、一層取り組んでまいります。
令和7年4月の建築基準法改正に伴い、令和8年度は改正内容の理解を深めるため、勉強会を中心とした活動を進め、会員の皆様と情報を共有しながら対応力を高めてまいります。支部全体で知識と経験を積み重ね、より充実した活動を目指してまいります。
結びに、今年も皆様のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げ、皆様のご健康とご多幸を心より祈念し、新年のご挨拶とさせていただきます。

南丹支部 支部長 永松 輝



あけましておめでとうございます。

南丹支部長も2年目となり、支部活動の理想と現実が見え始めました。一気に何かが変わるという特効薬はありませんが、小さな積み重ねが状況の好転を生むと信じて活動を続けていきたいと思っております。

昨年南丹支部では左記の事業を実施いたしました。

第30回南丹支部親睦ボウリング大会、既存建物への瑕疵担保保険と耐震改修勉強会、建築無料相談会（毎月）、建築士の日事業（建築士と学ぶ旧亀山城下町まちあるきツアー）、2級建築士試験監理員派遣、南丹支部忘年会など。

実施した事業の細部を検証しましたら、実施効果が薄い事業等があることと、また南丹支部内部の組織構成も委員会が4つありますが、今の時代に合っていない部分もあるのではないかという声も上がっておりました。

今年は、活動に意味があり、さらに魅力的な活動内容になるように検証を重ねて支部の変革を進めて行こうと思っております。

この文章を果たして何人の方が読まれているかわかりませんが、読まれた方は南丹支部の活動内容にご注目ください。そして、他支部の方々も相談に乗って頂けたらと切に思います。どうぞ本年も1年間よろしくお願いいたします。

宇治支部 支部長 藤森 順



あけましておめでとうございます。日頃は支部の活動にご協力いただきありがとうございます。

さて私、結婚して30年になります。新婚一発目の年賀状はご多分に洩れず結婚式でのドレス&タキシードのフォト年賀状でした。その後10年程はプリントごっこでせっせと作り、今ではカラープリンターで刷るようになりました。年賀状のイラストを考えることがアイデンティティであり、ずっと美術部だった私のプライドです。なんせ楽しい。師走のクソ忙しい中でもこれだけは譲れないんです。

でもこの正月の風物詩が危機に瀕してます。いまや市販の図案にひと言「元気?」「また遊ぼ」と書かれたものが大半であり、その文言も無い味もシャシャリもない年賀状も少なくありません。中には「来年からやめます」と絶交を宣言される場合もあります（笑）。形骸化に飽きてしまい経済的な理由もあってかメールで「あけおめ」を伝えられることも増え続けてます。

これらの図式が色んな社会的団体にも当てはまるような気がします。マンネリ化した運営の中でますます希薄になる人間関係に歯止めがかからないことを憂いながらそれでも頑張る一部の姿。なぜ頑張るの？楽しいからじゃないですか！…え？それって楽しいの？

支部長になって2年目。まだまだ道半ばです。フェードアウトか大爆発か…さて今年のおみくじはいったい何が出たでしょうか。ますます楽しい宇治支部になるよう、自身の年賀状同様に考えますので本年もよろしくお願いします。

京南支部 支部長 吉田 雄一



会員の皆様におかれましては、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

平素は、支部活動並びに本部活動にご支援、ご協力を賜り御礼申し上げます。

旧年中は多くの方々のご支援とご協力のおかげで、二月に4号特例の縮小、省エネ義務化に伴う勉強会を開催することができました。多くの会員の皆様にご参加いただき心より感謝申し上げます。

会員相互の技術力向上に貢献できたことは、本会の大きな成果だと考えております。

今年は建築士の日事業含め、今まで以上に会員の皆様と共に事業に取り組み、活動を行ってまいりたいと思います。

支部事業の中で、建築に携わる人同士が話し合い、情報共有しあえる場として活用して頂くことを望んでおります。

建築士会に入って良かったと思って頂ける活動を行うことが、会員の拡大にも繋がると考えております。

今年は午年です。馬が大地を駆け抜けるように、皆様と共に力強く前進してまいりたいと存じます。

長きに渡る世界不況の中、明るい未来を生み出すための大きな飛躍の一年となることを願っております。

結びにあたり、本年も皆様方のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げると共にご健勝、ご多幸を祈念いたしまして年頭のご挨拶とさせて頂きます。

青年部会 部長 原 利行



僕はケンチクが好きです。そして、ケンチクを愉しんでいる人が好きです。

「ケンチクはタノシイ！」と感じられる瞬間を分かち合い、その機会をつくることが、青年部長としての私の役目だと考えています。

２０２４年に青年部長を拝命した際、「ケンチクはタノシイ！」をより多くの人へ届けることをテーマに掲げました。昨年度は大学生とともに事業をつくり、今年度は高校生への出前授業を実施するなど、ターゲットを次世代へ広げてきました。

青年部会の仲間とともに企画・運営している年間13事業は、どれも熱量の高い取り組みです。学びの場、交流の場、そしてケンチクの楽しさを再確認できる場として、多くの皆様にご参加いただければ嬉しく思います。

２０２２年に開催した建築家セミナーにて、永山祐子さんのご講演の中で心に残った素敵な言葉があります。

―建築家はあきらめないのが仕事。
自分がこれでいいや、
と言ったら終わってしまう。
実現できないものが生まれる。―

日々無数の選択肢の中から手探りで自分の信じる道を選び続ける建築設計という仕事において、大切にしたい姿勢だと強く感じました。

このマインドは建築士会でつくり出す事業にも通じるものです。

２０２６年も、皆様にとって最高の学びと交流の機会を生み出し続けますので、本年も変わらぬご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

女性部会 部長 徳光都妃子



会員の皆様におかれましては健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

旧年中は、女性部会創設40周年記念事業をはじめ、長楽館での全員会議、建築士の日の事業、支部合同会議など、数々の活動にご協力賜り、誠にありがとうございました。皆様の温かなご支援とご尽力により、充実した一年を築くことができましたこと、心より感謝申し上げます。

女性部長としていたらない点が多い中、つとめられてきたのは女性部会の仲間のおかげです。建築をとおして、広く深く社会を知ることができるようになった事が、わたくしにとっての人生の宝となりました。これからも、好奇心を失わず建築の面白み、楽しさ、やりがいを見つけていきたいですし、多くの方に知ってもらいたいと思います。

そして、新たな年を迎え、京都府建築士会のさらなる発展と、女性部会がより一層活躍できる場の広がりを願っております。

本年も、互いに学び合い、支え合いながら、建築を通じて社会に貢献できるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

調査のこだわり
～一人の修道士兼建築家を追って～
京都市文化財マネージャーの視点で

永松 尚



ながまつ・たかし
スクール・アーキテクツ
一級建築士事務所代表
京都市文化財マネージャー（建造物）
認定NPO法人 古材文化の会

惜しまれながら閉幕した関西万博の泡沫の興奮と熱狂が冷めやらぬ十一月初旬、京都市内では今年もまた「京都モダン建築祭」が開催された。今年で四年目を迎え、〝建築好き〟にとっては恒例のイベントに成長し、各会場の来訪者数の合計が二万人を上回った日もあるなど、万博とは規模の比較はできないが、十一月一日から九日間、活況を呈した。

我々、京都文化財マネージャー（以下、文マネ）は、初年度からミニツアーや建物に常駐する形での〝ガイド〟を務めてきたが、今年から他のガイドと併せ、一括して〝ナビゲーター〟と呼ばれる役目を担った。四年目に至っても少人数による有志としての参加に変わりはなく、担当した建物によっては、孤軍奮闘、一人で務めたケースもあったが、クロージングイベントでは実行委員長の笠原一人京都工芸繊維大学准教授による講評において、真っ先に〝文化財マネージャー〟の存在に触れていただいたことは、冥利につきることでもあった。十七回目となる今回は、このモダン建築祭で筆者がツアーガイドを担った教会建築を再び紹介したい。

正確には、〝教会建築群〟というべきで、カトリック京都司教区によって昭和二十年代に建てられた高野、西陣、伏見、衣笠、山科の5つの教会である。これらは全て、二〇一七年の桂教会（本稿連載第二回『事例・西京区での取り組み』／二〇一九年六月号）調査後、同教会関係者より調査を勧められ京彩制度に推薦した。モダン建築祭では、公開エリアに唯一建つ西陣教会でガイドを務めたが、調査を担った文マネとして、司教区に建つ全ての教会建築の存在とその歴史を伝えることから始めたように、ここでもそれぞれに述べておきたい。

先ずは一九一一年に設立された米国のメリノール宣教会について触れておく必要がある。前掲の桂教会の掲載記事でも伝えたように、近代におけるカトリック京都司教区の宣教は、明治維新後、禁教が解けた一八七九（明治十二）年に入洛したパリ外国宣教会が最初である。河原町三条に一八九〇（明治二十三）年に建てられ、後に国の登録有形文化財として明治村で移築されている聖ザビエル教会は、この宣教会時代のものである。その後、メリノール宣教会が一九三七（昭和十二）年に滋賀県から宣教を始め、パトリック・J・バーン司教が任命を受け、大阪教区から京都、奈良、三重、滋賀を独立した京都知牧区として管轄した。

バーン司教の持論は、「信仰の土着化という立場から、教会の建物は日本風のものであるべき」であり、これを具現化したものが、「カトリック大津教会」（一九四五年）で、青い釉薬瓦を葺いた反りをもつ屋根が特徴である。同司教は、太平洋戦争中、宣教師、修道士の全員が米国へ帰国するなかで、唯一、日本に留まったことでも有名で、戦後は、連合国司令部とマッカーサー最高司令官の厚い信頼を受け、意見を求められることもあり、時には天皇制の維持や靖国神社の存続も説いたキリスト教者であった。

戦後、京都司教区におけるメリノール宣教会による一連のカトリック教会建設は、それまでバーン司教が幽閉されていた高野教会の聖堂及び伝道館から始まる。一九四八（昭和二十三）年に竣工し、以後、西陣教会聖堂、丹波教会園部伝道館、伏見教会聖堂及び司祭館を含む第一伝道館と丹波教会園部司祭館、衣笠教会旧聖堂（推察）と続き、一九五三（昭和二十八）年の山科と丹波教会園部の両聖堂まで、毎年のように教会施設が建設された。これら全ての設計・監理を担ったのが、終戦の翌年に派遣されたウィリアム・ニーリー修道士である。戦前も日本での宣教活動に加わっていたため、再来日であった。

〝Maryknoll Mission Archives〟（以下、MMA）という一九九〇年に設立されたメリノール宣教会の公式保管団体がある。世界各国で宣教活動の記録の多くが保管され、簡単な「Biography」も記載されている。それによれば、ニーリー修道士は、周囲から司祭となるようにと勧められながらも、その生涯を修道士として全うし〝大工、機械工、石工、製図工、そして建築家としての才能を発揮した〟と記されている。しかしながら、京都司教区内には、ニーリー修道士が多くの教会建築に関与したことを証明する資料は皆無に近く、僅かに残る図面の一部にさえ、本人による記名はない。

さらに教会建築の調査においては、各教会毎に創立や献堂後の節目となる年毎に発行される記念誌等に綴られた回顧記事等も重要な資料となるが、高野教会の『創立六〇周年・献堂五〇周年記念誌』に、「ブラザー・ウィリアムが、高野、西陣、山科等の聖堂設計を一人で担当していた」という記述の他は、ある関係者の思い出が記されているのみで、ニーリー修道士本人の〝肉声〟に近い建築家としての思考や哲学のような記載は一切ない。前掲の「Biography」では〝宣教会における建築プロジェクトにおける重要な戦力〟とも記されているが、建築家である以前に、キリスト教者として、教会建築に携わることも〝奉仕〟であることを貫いたがために、自らの名前を残そうとはしなかったのではなかろうか。

そこで、MMAの保管資料の中に、関係者の日記や書簡類が含まれていること、さらには有料で提供を受けることに着目した。今さら言うまでもないが、文マネによる京彩調査は、育成講座後の〝スキルアップ〟としての側面も兼ねていることから、委託費用は極めて廉価であり、一件あたりの分配額の中から資料調達のために充当できる金額は限られている。東京駅が描かれた新札一枚にも満たない程度の額である。その費用で教会名を検索ワードとして、英



カトリック大津教会
（大津市）



パトリック・J・バーン司教

【ウィリアム・ニーリーが手掛けたカトリック教会聖堂のファサード】



西陣教会



筒状にテラゾーで被覆されたエントランスの柱意匠（西陣教会）



ウィリアム・ニーリー修道士
（兼建築家）
昭和21年から昭和29年まで
京都で教会建築を担当



高野教会



伏見教会



丹波教会園部聖堂（南丹市）

語が堪能な調査メンバーによって資料購入を申請するわけであるが、入手できる量は、海の向こうの係員次第であり、探索時間が料金に換算されるため、貴重な残り銭をつぎ込むギャンブルのようにも思えたが、意思が通じたのか結果的には〝万馬券〟とはいかないが手堅く元手以上のものを得たといっても過言でない。これらによって、時系列とともに教会建設計画の一部始終や、完成時の歓喜の状況が垣間見え、調査の都度、徐々にニーリー修道士の足跡も明らかになった。

なぜ、ここまで資料に拘るのか。戦後京都のカトリック教会建築については、中川理先生（京都工芸繊維大学名誉教授）が著書『京都 近代の記憶 場所・人・建築』（二〇一五年 思文閣出版）に記述があるが、調査を担う者として、建築年代と設計者であるウィリアム・ニーリー修道士について、一次資料に相当する根拠等、より詳細な情報を欲したのが最大の理由である。かくして入手した資料は、調査において重用した。

高野教会に関しては、一九四七（昭和二十二）年十一月二十五日付で「京都の高野に教会とホール、西陣に教会と牧師館とホール、伏見に土地を購入し、司祭が決まり次第、すぐにでも建物を建てようと計画し、建築計画に着手しています。（中略）、すでにブラザー・ウィリアムが計画を立て、請負業者と契約しています。」と記された連合国司令部（GHQ）側から宣教会本部に送られた書簡が残る。先行する二つの教会の計画の進捗具合が解る。翌年になると当時の高野教会主任司祭であったマキロップ神父から本国宛ての報告では、六月に「聖堂と伝道館の工程が順調であり、聖母被昇天の日（八月十五日）までの完成を目指している」と伝えたかと思えば、一ヶ月後に

は、占領下で物価上昇と円安による建設資材高騰が厳しく、支援強化を切々と訴える書簡も送られており、戦後混乱期の様子が伝わる。八月の完成後、九月の書簡では、「ブラザー・ビルは素晴しい仕事をしてくれ、教会を見た人は皆、感嘆の声を上げている。」と高く評価し、「仕事ぶりはミッションの財産」と労っている。

木造2階建、延床面積約三六〇㎡の規模の高野教会の聖堂は、切妻屋根に洋瓦葺いたロマネスク様式の外観で、北大路通から間近に見ることができ、高く聳える鐘塔は洛北のランドマークとして、当時の高い評価に違うことなく、勇壮で厳かな姿を残す。

ファサードは、エントランスをアルコーブ状に刳り抜き、ドリス式オーダーを模した薄紅色のテラゾー製の二本の円柱を建てる。打音から中が空洞であると推察し、一回り小さいサブエントランスを注視すると、柱頭と軒桁の取り合いや柱脚に生じたポーチ床との微小な隙間等から、内部の木造の柱が荷重を支えていることが判るが、本体の胴部に組み合わせのための目地等の痕跡は見当らない。独立した木軸の柱の頂部から巨大なテラゾー製の筒を被せたのだろうか。調査の際、九〇歳を超え、建設当時を記憶されている古参の神父への聞き取りでは、米国から取り寄せたとのことであったが、施工方法の解明にはこれからである。

さらに、外壁を構成する外周部の柱は、二列で構成されている。これは、後述する西陣教会の調査で確認していたが、同じ壁厚であったことから推察した。

内部は、エントランス上部を楽廊に、内陣の奥の香部屋部分を道具庫とした2階建であるが、会衆席（身廊）と祭壇（内陣）部分は一室の大空間で高天井部分にはデザインされた木造のトラスが美しい姿をみせている。カトリック教会らしく窓ガラスには幾何学的なワンポイントとしてステンドグラスを嵌め込んでおり、日差しを受ける午後になると優しく眩い光の空間が広がる。

伝道館は、本来は聖堂を建立するまでの間、伝道を行う施設であるが、ここでは聖堂建設と並行して計画され、現在も信徒のための様々な活動に用いられている。間口四間×一〇間の単純な矩形平面で、屋根は寄棟造を和瓦で葺き、外壁は聖堂と同様のスタッコ壁にタイル貼りの腰壁と聖堂と同様のスタッコ壁を組み合わせた大壁造の外観である。端部の炊事場以外を可動間仕切で二室に分ける間取はメリノール宣教会による伝道館建築の基本形と言われている。

高野教会は令和四年度の認定調査であるが、これより一足早く、令和三年度、文マネ講座第十二期の修了課題調査として西陣教会が対象となった。コロナ禍の措置として京彩選定建物から調査対象を選択することに至ったもので、筆者も後見役的に関わらせていただいた。ＭＭＡの存在はこの西陣の調査時に既に知っていたが、資料入手の手続きは未知であった。前述の高野教会のマキロップ神父から本国への書簡にわずかであるが、西陣教会に関する記述が残っている。高野教会竣工から約半年後、一九四九（昭和二十四）年二月五日の日付で、「（西陣教会について）先週合意し、今週から建設を始めます。高野と同じようなデザインで、全く同じにならないように、いくつか変更する予定です。」という西陣教会着手を知らせる文面であるが、高野教会と同じ八月を献堂と定められていたとすれば厳しい工期である。さらに基本形に対して、少しだけ変化を加え、バリエーションを増やすという設計手法は、その後、メリノール宣教会の名のもとにニーリー修道士の手によって、京都司教区内で短期間で多くの教会を建築したことを考えれば当然とも思われる手法が既にこの時点で示されている。

実際に、一連の宣教会関連の教会の調査に関わってみると、平面や外観、或いは部位毎の意匠において基本方針のほとんどを共有しながら、残りの僅かな部分に変化を加えることでそれぞれの教会が固有の姿になっている様が明らかであった。

高野と同様に西陣教会も切妻屋根に洋瓦を葺き、鐘塔を有したロマネスクの外観である。エントランスの柱をテラゾー製の筒状で被覆していることも共通であるが一方で、開口部には西陣以降の各教会でアーチが付加されている。さらに木造二階建、延床面積約三五七㎡の規模はほぼ同等であるが、内陣をアルコーブに分節しその両脇に香部屋を配するなど間取りを変化させている。天井空間の木製トラスは寒さ対策として近年天井を張り隠蔽しているが、二階楽廊脇の物入から小屋裏を望見することができた。前述の外壁の二列組の柱の構成もここで確認した。

西陣教会の聖堂の西側には和館〝洋庵〟が残る。教会側からこの建物の調査も要請を受けた。明治期に重要な人物が住まわれ、良材が使われていることを解明してほしいというのがその理由であったが、旧土地台帳等によれば、初見は、明治前期、実兄と共に旧鳥取藩を脱藩した尊攘派の志士河田景福である。長州藩へ合流し、戊辰戦争で京都山国隊の隊長を務め、その縁もあって維新後、一八八四（明治十七）年、山縣有朋の意向によって滋賀県大書記官に抜擢され、それまで遅々として進まなかった疎水事業を取り仕切り、加速させたことで〝陰の功労者〟とも呼ばれていることを記した資料も残る。一九一〇（明治四十三）年には、旧薩摩藩士川上親晴が取得している。各地の警察職や書記官を務めた後、同四十五年一月に第三代京都市長となった人物である。但し、すぐに政府の要請を受け同年暮れには警視総監を拝命した、在任僅か十一ヶ月であった。やがて一九三八（昭和十三）年に司教区の古屋司祭の名で取得され、伝道館として用いられた。床の間を祭壇とし床柱に十字架を掲げていた宣教初期にバーン司教の唱えを今もなお体現している貴重な遺構であるが、ほんの少し前まで〝夷狄〟と例え排斥主義に走っていた志士達が代々居所とした屋敷が伝道場所に変遷を遂げたことは、御所と相国寺門前の地に同志社を迎え入れた京都においては、珍しくもないことかもしれない。内部は、一階の座敷が、材も設えも見事でありながら、二階は明らかに大工の手が異なるようにも感じられる。さらに二階階高がかなり高く、一階天井ふところは大人が立てるほどの高さであり、外観上も間延びした異質なプロポーションである。増築のようにも思われることから、モダン建築祭で案内する際には、どの時代の所有者が如何なる理由のために増築したのか、という話題を提供し、歴史的背景を考察しながら考える楽しみを味わってもらった。また、庭には、河原町教会の隣接地に京都ロイヤルホテルが建てられる際、元の旧対馬藩邸跡から移設された待合や灯篭が残されている。さらに聖堂の南側には、蟇股のような社寺風の意匠をＲＣ造で作り込んだ納骨堂も建つなど、西陣教会には明治から昭和にかけての〝モダン建築〟の時代の断片が数多く潜む、歴史好きには話が尽きない敷地と建物である。

聖母女学院正門の北隣、伏見街道沿いに建つ伏見教会は、令和五年度の認定調査である。四四二㎡と規模が少し大きいが、や

はり外観仕様の基本は同じである。平面は、エントランスがアルコーブではなく、二階楽廊を張り出したピロティ形式としたことが明らかに他とは異なる特徴であるが、アーチを用いた開口や柱被覆は同様で、内部のトラスも高野教会と酷似している。

調査も三件目ともなると、それぞれの教会毎の相違と類似点から、考察が進み、不明であった類似点も解消に至る。

内部については、一九六二年から三年をかけて開催された〝第二バチカン公会議〟が重要である。これを機にミサの形式の変化し、祭壇の向きなどが大きく変わり、内陣と会衆席の間の柵が廃止された。撤去された痕跡が高野教会では見当らなかったが、西陣、伏見と確認できた。

トラスに関しては、ほぼ同じように見えるが、中央で継いだ下弦材について、天井を張った西陣では小屋裏の見分で僅かに角度を付けていたことが判明したが、伏見では高野と同様に極めて緩やかに湾曲させている。セラミック製部材によるボルト隠しを用いた構成も確立され、また、両端の三角形の持ち送りの意匠は、キリスト教の概念である〝トリニティ（三位一体）〟の図式を取り入れたものと解き明かした。

伏見教会の第二伝道館は、聖堂の建設中写真の中にその隣で黒塗りされた姿を見つけた。戦時中、陸軍第十六師団司令部（現聖母学院）が防空処置として、外壁をコールタールで黒く覆ったことは既知であることから、同時期に既に建っていた兵舎、即ち、宣教会によるものではく、陸軍建物としての遺構であることが証明された。

二〇二五（令和七）年は、昭和百年戦後八十年に当たる年であった。一連のカトリック教会の調査においては、窓廻り等の塗装に緑色を多用している理由が、GHQから譲り受けた軍用車用の塗料に由来することなど、戦時、或いは戦後の混乱期から復興期にかけての時代背景を想起させる要素も多数にある。

昨年から取り組んでいる山科教会は、戦時に飛行機格納庫用に開発された〝新興木構造〟を架構に採用したと言われている。京丹後市峰山町に、この技術と用いた格納庫跡が遺っており、この原稿を執筆し始めた十一月に同市で東京大学の腰原教授を迎えての後援会が開催され、その一週間後には、山科と同じ図面を用いたとされながら、存続と建物保存が論じられている丹波教会園部聖堂の見学会が行われた。偶然のタイミングである。

さらにこのタイミングで二〇一九年二月号以来のこの連載も一つの区切りをつけさせていただくことになった。

京彩制度の今後の展望について言及できないのは心残りであるが、長い間のご愛読感謝申し上げます。

●参考資料
「〝京都を彩る建物や庭園〟認定候補調査報告書カトリック高野教会」
「〝京都を彩る建物や庭園〟認定候補調査報告書カトリック伏見教会」
「カトリック西陣教会建物調査報告書／第12期京都市文化財マネージャー育成講座修了課題調査 第2班・第5班」
メリノール・ミッション・アーカイブHP
https://maryknollmissionarchives.org

【トラス架構を用いた聖堂内部】


高野教会


西陣教会（同様のトラスが天井内に隠蔽されている）


伏見教会


トラス梁の持ち送り（伏見教会）


三位一体（トリニティ）の教理を示した図式

お知らせ

事務局移転について

（一社）京都府建築士会 事務局を、下記の住所に移転することになりました。
移転に伴う窓口休業とあわせてお知らせいたします。

事務局窓口休業　令和8年3月4日（水）～3月10日（火）

※休業期間は、電話・FAX・メール等は不通になります。ご理解くださいますようお願い申し上げます。

【新住所】〒600-8436 京都市下京区室町通松原下ル元両替町254
TEL（075）211－2857　FAX（075）255－6077
※電話番号・FAX番号の変更はございません。

事務局通常業務再開　令和8年3月11日（水）～

令和７年度 既存住宅状況調査技術者講習

事業委員会

【更　新】
●ＣＰＤ　2単位
●日　時　2026年2月17日（火）
午後1時20分～4時50分（受付：午後0時50分～）
●会　場　京都建設会館別館 会議室
●定　員　20名
●申　込　（公社）日本建築士会連合会　HPよりお申し込みください。
●内　容　国土交通省の既存住宅状況調査技術者講習制度の講習を修了した、既存住宅状況調査技術者が対象となります。
資格を取得した年度の3年後の年度末までが有効期間となります。

令和７年度 監理技術者講習

事業委員会

●ＣＰＤ　6単位
●日　時　第4回　2026年3月10日（火）
受付開始：午前9時　運営説明：午前9時20分～9時30分　講習：午前9時30分～午後5時10分
●会　場　京都建設会館別館 会議室
●定　員　20名　※定員になり次第締切
●申　込　（公社）日本建築士会連合会　HPよりお申し込みください。
●内　容　建築士会が行う『監理技術者講習』の大きな特徴は、『建築に特化した講習内容』であり、特にテキストは分かりやすく、建築施工実務に役立つだけでなく建築工事全体について学習できる充実した内容となっています。また、法定講習であると同時に建築士会CPD認定研修でもあります。
設計業務にのみ従事されている方も建築施工の知識を得るために、この機会にぜひ積極的にご受講ください。



支部だより　京南支部

建築士会に入会しました

京南支部 準会員　吉田樹生





このたびご縁をいただき、建築士会の活動に初めて参加させていただくことになりました。私は現在、大学で建築を学んでいる学生で、専門知識も経験もまだまだ浅い立場ですが、建築に対する興味と学びたいという思いだけは強く持っています。授業で図面を描いたり模型をつくったりする時間が増えるにつれ、建築という分野は、単に空間をつくるだけではなく、人の暮らしや地域の歴史、環境と深く関わりながら成り立っているものだと実感するようになりました。建物を見るときも、意匠や構造だけでなく、「なぜこの場所にこう建っているのか」「なぜこの素材が選ばれたのか」と考える習慣がつき、学べば学ぶほど奥行きのある世界だと感じています。

今回、建築士会に参加することで、学校では得られない学びや出会いがあるのではないかと期待しています。とくに、現場で活躍されている先輩方の考え方や価値観に触れられることは、学生にとって非常に貴重な経験だと思います。建築が社会でどのように役立ち、地域の生活にどのようにつながっていくのかを、自分の目で見て理解していきたいです。また、地域の建築やまちづくりの取り組みに参加する中で、実際の課題や現場のリアルな声を知り、これからの学習への姿勢や将来の進路に対しても、より具体的なイメージを持てるようになればと考えています。

わからないことや苦手なことに向き合うのは勇気がいりますが、学生のうちにたくさん悩んだり失敗したりする経験こそが、将来の自分を支えてくれるのではないかと感じています。建築士会での活動では、知識の吸収だけでなく、人とのつながりやコミュニケーションも大切にし、積極的に学びにいく姿勢を持ち続けたいです。

まだまだ未熟な身ではありますが、建築に対する真剣さと、地域や社会に少しでも貢献したいという思いを胸に、これからの活動に参加していきたいと思います。どうぞ温かく見守っていただき、時にはご指導いただければ幸いです。今後ともよろしくお願いいたします。

本のストラクチュア ● 第15回

【ダイアローグ〈危機〉の時代の長谷川逸子・原広司・伊東豊雄】

先日「X」のタイムラインのなかに、ある函入三冊組の本が「まったく売れていない」という編集者の投稿を見つけた。在庫の山を前に発せられた悲鳴。そこに添えられた「買って後悔はないはず！」という売り文句。それらがしばらく頭に残っていた私は、出張先の神保町で「一冊」買って帰ってきたのだった。

三冊を収める函には「ダイアローグ」と銘打たれている。その下に「〈危機〉の時代の」と控えめにテーマがあり、再び大きな文字で「長谷川逸子・原広司・伊東豊雄」と三巨匠の名前。さらに対話者5人の名が連なる。それらを囲むように座談会の写真や収録図版の断片があしらわれたパッケージは、情報量に反して直感的にはわかりにくくもある。

この本はカナダ建築センター（CCA）企画によるリサーチプロジェクトのアーカイブとして出版されたものだという。原著となるCCAから出た英語版に、多くの資料が追加され、増補版とも、和訳された「里帰り」（本書の中でそう表現されている）版ともいえるものが、日加共同で出されたかたちである。

プロジェクトには日本の批評家や建築家が数多く参加。三巨匠を対象にして、とくに1970年～80年代の活動に焦点をあて、個々の作家を超えた時代性を深堀りしようと試みた。その成果として、発掘された多数の資料と、対話としての「ダイアローグ」、そして担当者による論考のセットが建築家ごとに一冊にまとまり、三冊組を形成することになったのである。

たしかに一つひとつの内容はかなり面白い。生っぽさを残して掲載された図版だけでも見ごたえがあるし、「ダイアローグ」では、掲げられた問題意識に対して具体的に言語化がなされていく。歴史的事実の記録にとどまらず、あらたな物語として描き出されていく様は、オーラル・ヒストリーならでは。論考はそこにビビッドなまなざしを与えてくれる。

函から出した三冊を、ときには行き来しながら読むのも楽しい。同時代という前提があるからこそ、バラバラの事象のつながりもズレもだんだんと浮かび上がってくる。それこそ本書の醍醐味だと言っていいだろう。

しかし、パッケージの不明瞭さはやはり拭えない。「里帰り」であり、共同出版であり、参加者が多く、リサーチの対象者も複数いる。肝心のテーマは情報に埋もれがち。これは一旦何なのか、ここまで書いても説明しきれていない気がする。

本は単独で立つものではない。先人による研究や叙述、表現の蓄積が、過去にも未来にも互いに結びつき合いながら存在している。巨大なネットワークのノードとして、いかに際立つかということ、つまり「1冊」としての切り口の鋭利さが、本にはいつも問われている。だから分割は、分冊によってでなく、1冊の内側で行えばよいのではないかと、私は思っている。

とはいえ、この本の構造的な魅力も捨てがたい。函から取り出したスリムな一冊は、出張のお供にもちょうどいい。クリアな一冊を読み通すのとは、まったく異なる手探りの体験がそこには用意されているのである。

（西尾圭悟　編集者／hoka books 店主）



『ダイアローグ〈危機〉の時代の長谷川逸子・原広司・伊東豊雄』
millegraph＋CCA、2025
門脇耕三、若林幹夫、市川紘司、連勇太朗、太田佳代子 他

お知らせ

令和7年度 専攻建築士制度 登録申請の受付開始します

■令和７年度　専攻建築士新規・更新申請について■

●受付期間　2026年1月5日（月）～2月27日（金）

●申請対象となる建築士

【新　規】 1. 建築士会のCPDを実施し、過去１年間（2025年1月1日～12月31日）にCPD取得単位数が12単位以上であること
2. 建築士資格取得後の専攻領域の実務経歴年数が5年以上あること
3. 当該領域の「責任ある立場での実務実績」が3件以上あること

【更　新】 1. 過去5年間（2021年1月1日～2025年12月31日）にCPD取得単位数が60単位以上あること

●申請書の配布　日本建築士会連合会ホームページよりダウンロードしてください

●受付場所　（一社）京都府建築士会事務局（専攻建築士審査評議会）

●審査・登録手数料

【新　規】

	会　員	非会員
１領域	17,600円	29,700円
２領域	28,600円	48,400円
３領域	39,600円	67,100円

【更　新】

	会　員		非会員
	書類申請	Web申請	
１領域	13,200円	9,900円	29,700円
２領域	15,400円	9,900円	31,900円
３領域	17,600円	9,900円	34,100円

＜登録更新をされる皆様へ＞

令和2年に専攻建築士を登録された方は登録更新の時期になります。
Webから更新申請ができますので、「**専攻建築士管理システム登録更新申請マニュアル**」を
ご確認の上、「**専攻建築士システム**」より申請してください。



表紙のことば

藤森神社八幡宮社

戸田建設株式会社　建築設計統轄部　**林　伸昭**

藤森神社は伏見区深草に所在する。平安京遷都以前からこの地に鎮座するといわれ、とくに勝運と馬の神様として、全国的に篤い信仰を集める。神功皇后２０３（摂政３）年の創建と伝えられ、社伝によれば、神功皇后が三韓征伐から凱旋された際、この地に軍旗（纛旗：とうき）を立て、兵具を納めて塚を築き、神々を祀ったことが起源とされている。毎年５月５日に行われる「藤森祭」は、菖蒲の節句の発祥の地とも言われ、「菖蒲」の音が武を重んじる「尚武」、さらには「勝負」に通じることから、「勝運の神様」として武家や庶民の信仰を集めてきた。

本殿の奥には八幡社と大将軍社が並んで鎮座する。八幡社は武家の守護神、大将軍は王城守護、平安京南の守護神である。両社ともに１４３８（永享10）年の足利義教による建立で、ほぼ同形の建築で一間社流造、柿葺、室町時代の神社建築の様式を今に伝える貴重な建造物で、国の重要文化財に指定されている。極端な彩色や華美な彫刻などは見られず、室町時代らしい質実剛健で簡素な美しさを持つ社殿である。

スケッチは八幡社社殿を西側に立ち、紫陽花園を背景に描いている。看板や賽銭箱、囲いなどは省いて建築をできるだけ純粋に描いてみたが、質実・簡素とはいえ繊細な構成は、スケッチとして描くには非常に苦労した。今年は午年にあたり、例年より賑わうことも予想されるが、「午年」に参拝すると、そのご利益（特に勝運や金運）がさらに高まるとされ、参拝に訪れてみるのも一興である。

編集後記

あけましておめでとうございます。

年末年始は、仕事に家事にと奔走する方々にとって、どうしてもストレスの多い時期です。そもそもストレスというものは、あってもなくても、身体や心にさまざまな影響を及ぼすと言われています。

たとえば私の場合。建築士会に所属しているおかげで茶室に触れる機会があり、さらに2年ほど前から始めた茶道のおかげで、その世界にますます興味津々。これは一種の“良いストレス”です。一方で、巷を賑わせている北陸新幹線・三つの京都ルートのうち、「桂川案」では我が家の真下にトンネルが通るのでは…?と知り、「それは困る、嫌だ」と強く思ってしまう。これもまたストレス。まったく種類の違う感情が、ひとつの心の中でごちゃまぜになっています。

「大事は理、小事は情をもって処す」とよく言われるものの、その境界も曖昧なまま。きっと私はこれからも、大事と小事に振り回されつつ一年を過ごしていくのでしょう。

本当はもっと超然と、かっこよく生きたい。過去にも未来にもとらわれず、ただ「今」を生きる姿に憧れます。ちなみに、その“今を生きる”あり方を毎日そばで見せてくれているのは、我が家のお犬様とお猫様ですが。

――以上、犬猫に学ぶ今年の抱負でした。

（松田容子）

発行人●山領　正　編集委員長●黒木要州　編集委員●徳光都妃子／西田教子／沼田俊之／橋本光生／堀尾智子／松田容子／森重幸子／矢谷明也
デザイン●中　喜美　印刷●サンケイデザイン㈱

一般社団法人 京都府建築士会　会員の皆様へ　2025年4月版

AIG損保

集団扱 医療総合保険のご案内

一般の個人契約で
ご加入されるより



約9%割引

ご家族のご契約もお得に！
契約者、契約者の配偶者、契約者または配偶者の同居の親族など

AIG損保の医療総合保険の特長

■入院にかかる公的医療保険の対象となる医療費の**自己負担額**が0（ゼロ）になります。
（公的医療保険制度の自己負担割合に応じて型を選択した場合）
入院時の公的医療保険の対象となる医療費の3割自己負担額と
食事療養標準負担額を高額療養費制度の給付金に関係なくお支払いします。
※入院治療費用保険金(3型)をセットした場合

■**全額自己負担**となる個室使用料などの**差額ベッド代**を**「3万円×入院日数」**を限度に実費で補償します。
※入院諸費用保険金をセットした場合

■**先進医療・患者申出療養**による療養を受けた場合に、その技術料や交通費、宿泊費の実費を保険期間を通じて**2,000万円限度**にお支払いします。
※先進医療費用保険金をセットした場合
※先進医療費用保険金は日帰り入院または通院の場合も対象となります。
宿泊費は1泊につき1万円限度。

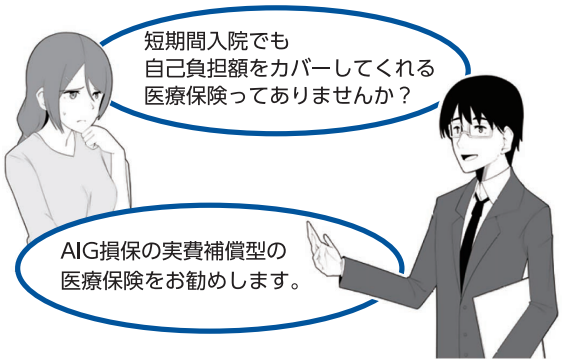
■**健康相談サービス**やセカンドオピニオンの手配などの**セカンドオピニオンアレンジサービス等**を提供。
※業務提携先であるティーペック(株)等が提供します。
サービスは予告なく変更または中止する場合があります。

割安な保険料で従業員の皆さまやご家族の入院の費用をサポートします！



差額ベッド代とは

個室など一定条件を満たす病室を利用した場合に生じる、公的医療保険との差額をいい
全額自己負担となります。



お問い合わせ・お申し込みは

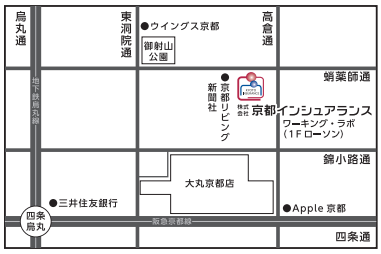
株式会社 京都インシュアランス

担当者：竹村泰造
内藤康子
(担当事務)

京都市中京区蛸薬師高倉通西入泉正寺町３３４　日昇ビル２Ｆ
京都フィナンシャルパークス内（1Fローソン・ドラッグひかり）

0120-56-3080（平日 10：00～17：00）

ご相談・お問い合わせは
←コチラから



AIG損害保険株式会社
〒105-8602 東京都港区虎ノ門4-3-20
03-6848-8500
午前9時～午後5時
（土・日・祝日・年末年始を除く）

https://www.aig.co.jp/sonpo

D-007705　　有効期限：2026年3月

●このチラシは保険商品の概要をご説明したものです。詳細につきましては、パンフレット等をご覧いただくか、取扱代理店・扱者または弊社にお問い合わせください。また、ご契約に際しては、保険商品についての重要な情報を記載した重要事項説明書（「契約概要」「注意喚起情報」等）を、事前に必ずご覧ください。
●引受保険会社の損害保険募集人は、保険契約の締結の代理権および告知受領権を有しており、引受保険会社との委託契約に基づき、保険契約の締結、保険料の領収、保険料領収証の発行、契約の管理業務などの代理業務を行っています。

京都だより KYOTODAYORI 2026年1月1日発行 通巻578号 毎月1日発行 発行所：一般社団法人 京都府建築士会 〒604-0944 京都市中京区押小路通烏丸東入橋町641 京都建設会館別館 TEL 075-211-2857 FAX 075-255-6077 定価800円(税込) 送料180円別



1級建築士合格実績 No.1

令和6年度 1級建築士 学科・設計製図試験
全国ストレート合格者占有率 64.3%
全国ストレート合格者 1,036名中／当学院当年度受講生 666名

令和6年度 1級建築士 設計製図試験
全国合格者占有率 58.7%
全国合格者 3,010名中／当学院当年度受講生 1,768名

★学科・製図ストレート合格者とは、令和6年度1級建築士学科試験に合格し、令和6年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。 ※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会「No.1表示に関する実態調査報告書」に基づき掲載しております。 ※全国ストレート合格者数・全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づきます。 ※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。（令和7年1月15日現在）

総合資格学院 京都校

京都府京都市下京区四条通西洞院東入郭巨山町18番地 ヒラオカビル 6F
TEL:075-253-0481

スクールサイト www.shikaku.co.jp コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp X ⇒「@shikaku_sogo」LINE ⇒「総合資格学院」Instagram ⇒「sogoshikaku_official」

開講講座 1級・2級 建築士 | 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 | 建築設備士 | 1級 管工事施工管理技士 | 1級・2級 建築施工管理技士 | 1級・2級 土木施工管理技士 | 宅地建物取引士 | インテリアコーディネーター | 賃貸不動産経営管理士

● 京都府知事指定 民間確認検査機関 ● 近畿地方整備局長登録 住宅性能評価機関
● 近畿地方整備局長登録 登録建築物エネルギー消費性能判定機関

KYOTO ORGANIZATION OF CONFIRMATION & INSPECTION
株式会社 京都確認検査機構

Kind（親切） Open（明快） Certain（確実） Immediate（迅速）

■業務内容：
- 建築確認（事前審査有）・中間検査・完了検査
- 住宅性能評価《設計評価・建設評価》
- 住宅金融支援機構《フラット35（適合証明業務）》
- 住宅瑕疵担保保険取扱《まもりすまい・JIO・あんしん保険》
- 長期優良住宅建築計画（技術的審査）
- 低炭素建築物新築等計画（技術的審査）
- 建築物エネルギー消費性能確保計画（省エネ適合性判定）

■業務区域：京都府全域

■手数料：当社ホームページをご覧いただくか、窓口で配布の料金表をご覧ください。
- 納入は当社受付窓口または銀行振込で。

■営業時間・休業日
- 営業時間　午前9：00～午後5：30
- 休　業　日　土曜日・日曜日・祝日・年末年始・お盆
（年末年始・お盆については事前にホームページなどでお知らせいたします）

〜ご利用をお待ちしております〜

契約駐車場（新椹木町沿コインパーキング・市営御池地下駐車場）については駐車券を配布しております。



〒604-0931
京都市中京区二条通寺町東入榎木町82
宮崎ビル4階

●ホームページ http://koci.co.jp/
●Eメール sinsa@koci.co.jp

TEL：075-256-8980 審査部
075-256-8981 検査部
075-256-8982 構造部
075-256-8984 評価部
FAX：075-256-8985 審査・構造部
075-256-8986 検査・評価部